

## デフサッカーの魅力伝える

「『デフサッカー』は、通常のサッカーとルールは変わりません。違う点は、選手全員が、聴覚に障がいのある人ということ。出場中は、補聴器を外すことが義務づけられており、声によるコミュニケーションを取ることはできないので、目で『見る』情報だけでプレーしなければなりません。そのため、『視野の広さ』が重要になります」とデフサッカーの神髄を伝えてくれた松元さん。

生まれつき聴覚に障がいがある松元さんは、小学3年生からサッカーをはじめ、テレビで見たフランスワールドカップに出場している元日本代表・川口能活さんに憧れてゴールキーパーに。強豪校で健常者とともにサッカーの練習に打ち込んでいた時期に日本ろう者サッカー協会役員から声を掛けられ、デフサッカーと出会った松元さんは、現在、日の丸を背負って、海外選手と試合を重ねています。

「デフサッカーだけではなく、4年に一度開催される聴覚障がい者のオリンピック『デフリンピック』を知っている人は、まだまだ少ないですが、福祉が進んでいる欧州などでは、オリンピックに劣



▲講演前に、市内の小学1年生から3年生までを対象に行ったサッカー教室

らないほど、人気なんですよ」と笑顔を見せる松元さん。デフサッカーで世界一になり、日本での認知度を上げ、日本で世界大会を開催したいと現在の夢を教えてくださいました。

## 個性と向き合う

「会話についていくことができなかつたり、声をかけたのに無視されたと思われたりすることは、本当につらかったですね。つらさのあまり、両親に反発したこともありましたが、今は障がいを自分の個性だと思っています。両親をはじめとした多くの人に支えられながら、あきらめずに練習を積み重ねてきたことで今の自分がある」という松元さんは、「夢や目標に向かって、自分のやりたいことをやり続けてほしい」と子どもたち



KIRARI

まつもと たくみ  
**松元 卓巳**さん

(あいおいニッセイ同和損害保険(株)所属)

平成30年12月2日(日)、東京2020オリンピック・パラリンピック登別市ホストタウンプログラムの一環としてデフサッカー日本代表・松元卓巳さんを招き、第14回『障害者週間』記念事業で記念講演やサッカー教室を行いました。今号では、松元卓巳さんから、子どもたちへの熱いメッセージをいただきました。

**現状に満足せず、限界に挑戦し続けたからこそ、今がある**



平成元年、福岡県生まれ。29歳。

先天性の混合性難聴。全国大会の常連校・鹿児島実業高校サッカー部在籍中に、聴覚に障がいのある人のみで行う『デフサッカー』の日本代表に選出され、現在に至るまで日本代表として、公式戦27試合に出場。現在は、あいおいニッセイ同和損害保険(株)に勤務しながら、仕事と競技の両立を図っている。ポジションはゴールキーパー。